

讃岐国府ミステリーハンターの参加活動

さぬきこくふあとたんさくじぎょう
讃岐国府跡探索事業ボランティア調査員

(2013年度～2017年度)



2018年3月

香川県埋蔵文化財センター

表紙写真 北海道調査風景 観音寺市にて (平成 25 年 5 月)

はじめに

平成 21 年度から始まった讃岐国府跡探索事業では、讃岐国府の実態を明らかにするため、地名の聞き取り調査、微地形の記録、水利慣行の調査、発掘調査などさまざまな調査を行ってきました。発掘調査では中枢施設と見られる施設を確認するなど、大きな成果を上げることができました。

これらの調査は県内各地から募ったボランティア調査員（通称ミステリーハンター）と共同で行っています。ミステリーハンターの方々はこれまで培われた知識や経験をいかしながら、さまざまな調査活動の成果をもとに「まち歩き」ガイドやイベントでの展示などを通じて、讃岐国府跡を中心とする古代のロマンあふれる歴史の発信に尽力されてきました。

これらの活動についてはすでに『讃岐国府ミステリーハンターの参加活動 讃岐国府跡探索事業ボランティア調査員（2009 年度～2012 年度）』（平成 25 年 3 月刊行）と、『讃岐国府跡探索事業 ミステリーハンターのまち歩きガイド』（平成 26 年 3 月刊行）の 2 冊で紹介しています。

本書はこれらの続編ともいえるべきもので、ミステリーハンターが解散する最終年度に当たり、平成 25 年度から 29 年度に行った南海道の調査、鼓岡文庫の資料調査、新宮古墳測量調査、発掘調査、まち歩きなどの活動について、ミステリーハンター自らが執筆し、編集したものです。本書により、讃岐国府跡探索事業やこれらの活動を広く皆様方に知っていただければ幸いです。

また、南海道の調査結果については、『讃岐の南海道を歩く』（平成 29 年 9 月刊行）にまとめました。県内の古代史に興味を持たれる方々が各地の史跡を訪ね歩く際の道標になればと思っています。

最後になりましたが、讃岐国府跡探索事業とともにミステリーハンターの活動にご協力をいただきました方々に深く感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月

香川県埋蔵文化財センター
所長 増田 宏

目次

活動概要	1
1 南海道の調査	1
2 鼓岡文庫資料調査	4
3 新宮古墳測量調査	5
4 讃岐国府跡発掘調査	7
5 まち歩き	12
6 現地研修	13
9 カ年を振り返って	17
ミステリーハンターの主な活動行事	27
ミステリーハンター活動記録の刊行	30

活動概要

1 南海道の調査

手元に、印刷されたばかりの冊子がある。私たちミステリーハンターが、9年間のほぼ全期間を通して取り組んだ活動が結実した『讃岐の南海道を歩く』である。では、9年間の活動を振り返ってみよう。

(1) 南海道推定地を歩く（平成 21 ～ 25 年度）

ミステリーハンターは、本来の調査活動のほかにテーマを設けて自主研究に取り組んだ。国津（松山津）・条里地割・文献古地名・南海道の4つのテーマの中で、最も参加者が多かったのが南海道の調査である。先学を踏まえて、まずは古代官道である南海道推定地を歩いた。

平成 21 年 9 月に打ち合わせ会をし、近くの坂出市府中町綾坂や高松市国分寺町近辺から始めて、発掘調査が始まる 11 月までに東はさぬき市大川町、西は丸亀市・善通寺市の範囲で重要ポイントを 9 回歩いた。南海道だけでなく、近辺の古墳や古代寺院跡などの見学も行った。とても有意義かつ楽しい歴史探訪ウオークだった。毎回、詳細な地図やレジメを作成してくれた葛原さんたちに感謝。

平成 22 年 8 月には、東かがわ市引田で研修会を開き、東かがわ市職員から大坂越えの説明を受けた後、現地で石碑や丁石を見学した。大坂峠の展望台から引田を一望し、ここから引田駅さらに讃岐国府を目指した古代の旅人に思いをはせた。

平成 23 年度は、4 回現地を歩いた。10 月には、坂出市府中町の綾坂から額坂まで伊予街道を歩き、城山^{きやま}をどのルートで越えたのかというテーマに取り組んだ。未だ解けない難問である。3 月 24 日の第 5 回研修会で、「古代南海道と讃岐国府」と題する講演の中で、藤好所長は国分寺盆地から讃岐国府がある坂出市府中町への南海道のルートについて、定説化していた綾坂ルートではなく、高松市国分寺町空路^{くうろ}から府中町前谷を通り伊予街道へと進むルートを提案した。

平成 24 年度は、善通寺市からさらに西へと歩みを進めた。大日峠^{だいにちとうげ}を越え、三豊市、



地図を手に南海道を歩く



さぬき市にて 富田茶臼山古墳付近を歩く

観音寺市へと足を延ばした。王墓山古墳や大野原古墳群、^{みょうおんじ}妙音寺などの古代寺院跡を見学したのも、古代讃岐の全体像をイメージするのに役立った。

南海道の現地見学は、平成25年5月25日の観音寺市大野原町大野原から萩原で終了した。

(2) 南海道のルート復元に挑む（平成25年度）

これらの現地見学を踏まえて6月より、南海道調査を開始した。ここからはミステリーハンター全員の活動である。まず、地図上に南海道を復元する作業から始めた。

作業は、戦後間もなく撮影された航空写真から条里地割を検出し、これを2,500分の1の都市計画図に書き写し、その上に方眼の透明シートをかぶせて余剰帯を検出しようというもの。余剰帯が即ち南海道の痕跡である。しかし、幅10mもあつた古代の官道も地図上ではわずか4mmほどの幅となり、拡大鏡必携の作業となった。

隔週の水・土曜日に埋蔵文化財センター分館に集まった作業は、わいわいがやがや言いながらの楽しいもので、余剰帯を見つけた時は思わず歓声が上がった。香川県は、全県で平野部の条里地割がよく残っているが、残っていない区間や山間部はこの方法ではルート確定はできない。峠越えのルートなどは、ミステリーハンター同士で活発な意見交換が行われた。

ミステリーハンターの積極的な活動によって、東の大内郡から西の刈田郡までの作業を9月中に終えることができた。

(3) 南海道調査の総まとめをしよう（平成26年度）

これまでの南海道現地調査・研究や、条里地割からのルート復元作業などのまとめとして冊子を作成することになった。6月10日の打ち合わせ会で

① 実際に南海道を歩きたいという人のガイドとなるルートを示した詳しい地図や写真、解説付きのものとする。

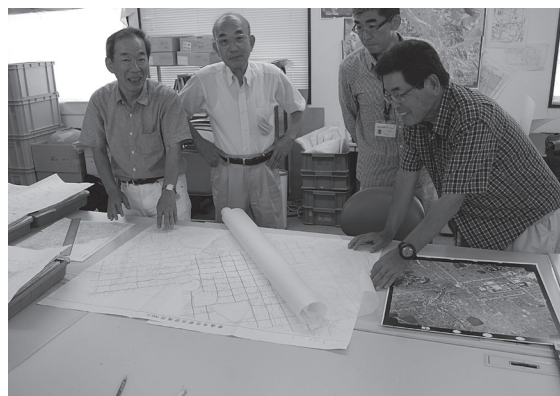
② 香川県の東から西まで全県をカ



齋藤さんの案内で観音寺市大野原町を探訪



南海道経路調査



余剰帯を見つけて思わず笑顔

バーするため、地図は32枚となる。

③ 原稿締め切りは10月末。などを取り決め、6つの班に分かれて活動を開始した。各班とも改めて現地調査をし、関連する遺跡や地名・地形の確認、写真撮影などを行った。地図には、最新の情報と歩く時の目印となる寺や神社、公共施設なども記入し、できるだけ活用できるものにしようと努力した。10月中には、各班とも地図の作成をし、解説文を執筆した。

(4) 冊子の編集(平成28年度)

1年の空白の後、今年こそ南海道の冊子『南海道を歩く(仮称)』を完成させたいというミステリーハンター全員の熱意により、8月の第2回研修会において編集委員を選出し、今年度中の完成を目指すこととなった。

9月9日編集委員会。9人の編集委員が「地図班」と「文章・写真班」に分かれ、地図・記載内容・写真の確認、校正、様式の統一などの編集作業を行うこと、冊子を手に歩く人たちのために、ルートが確定していない箇所も推定ルートを点線で示すことなどを決めた。班ごとの活動、合同編集会などをへて、12月第1校、翌年1月第2校終了。表紙、表題などの検討を経て、2月4日最後の編集会で作業を終えた。

3月11日、第3回研修会において、ミステリーハンター全員で表紙の写真を決め、最終原稿を閲覧した。

(5) 冊子の完成(平成29年度)

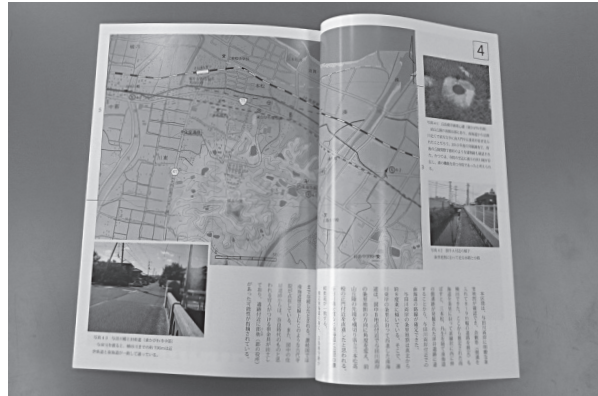
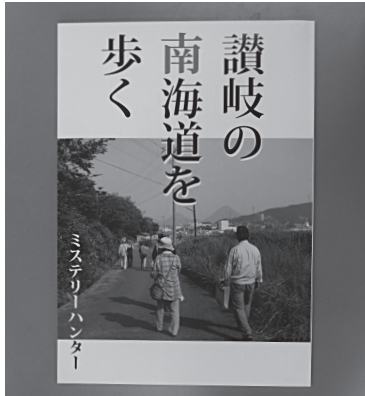
平成29年9月、香川県埋蔵文化財センターから、私たちが待ちに待った『讃岐の南海道を歩く』が刊行された。県内の図書館などに配布され、センターのホームページでも公開された。

私たちミステリーハンターの9年間の活動の成果が、目に見える形となったのは大変うれしいことである。発掘調査の成果がマスコミにも取り上げられるなどして国府の知名度は上がってきたが、南海道の方はまだまだである。古代史愛好家たちが、この冊子を手に讃岐の南海道を探訪してくれることを願っている。



現地調査は、夏のさなかに行われた。各班からの声を紹介する。

- 職員から南海道近くの発掘調査資料を解説付きでいただいて、大変参考になった。
- 空路から前谷方面を眺めると、旧線路沿いの道が真っ直ぐに伸びており、南海道はこのラインではないかと思った。
- 善通寺から財田川へと歩いた。とにかく暑かった。だが、ゆめタウンの3階から見た条里地割の景観は素晴らしく、向こうに本山寺の五重塔が見えた。



『讃岐の南海道を歩く』の表紙と見開き2ページで示された南海道のルート

2 鼓岡文庫資料調査

坂出市府中町本村にある鼓岡神社は崇徳天皇（上皇）を祀り、明治12年に府中村（当時）の村社として創建された。府中村では明治42年に藤井亀三郎村長が「鼓岡聖蹟顕彰会」（鎌田勝太郎会長）を立ち上げ、崇徳天皇750忌大祭（大正2年）、大祭記念文庫設置などの顕彰事業を進めた。今回、資料整理を進めた鼓岡文庫にはこの顕彰事業により収集された資料が保管されている。また、収蔵建物は昭和3年に昭和天皇の即位を記念して建てられたものである。



鼓岡文庫内での書籍の調査

この資料調査は讃岐国府に関する資料を収集するために、府中町に残っている文献資料調査の一環で行ったものである。調査は平成27年6月からスタートし、平成29年6月まで2年の期間を要した。

（1）書籍について

建物内の東エリアの棚に収蔵されている書籍の目録を作成する作業から開始した。ミステリーハンター24人を3班（1班8人編成）に分け、各班週1回活動を実施した。班にはそれぞれリーダーとサブリーダーを置き、1班は木曜日、2班は火曜日、3班は月曜日、それぞれ午前9時から12時ごろまで、建物内で作業を進めた。建物の東奥の書籍から順番に進め、作業台上で書籍の表紙、表紙の次ページ、奥付などを写真撮影し、調査を作成した。資料とともに番号が付いたしおりを併せて撮影し、書籍の表紙の裏に差し込んだ。

作業は平成27年6月15日からスタートし、6月5回、7月7回、9月9回、10月11回、11月10回、12月7回、年明けて平成28年2月は4回、3月7回、4月1回、5月10回、

6月8回、7月4日にしおり番号4580で現地での作業は終了した。現場での作業総日数は80日、延べ人員は320人を数えた。すべてに「しおり」を挟み込むのに1年間を越える作業となった。

現地での作業終了後、8月1日まで調書の入力作業を行い、一覧表を作成した。項目は、書名、著者、編集者、発行者、発行日、体裁、寸法、保存状態、備考である。

(2) 書画について

書籍の調査終了後、建物内の西エリアの棚にある書画の調査を行った。調査に当たっては香川県教育委員会生涯学習・文化財課職員の指導を受けた。

調査は平成28年10月13・18日、11月1・2・7・8日に実施した。作業日数は6日間、延べ人員は25人である。数点ずつ書画を神社敷地内にある擬古堂ぎこどうに運び、写真撮影をし、調書を作成した。調査点数は139点である。現地での作業終了後、平成29年1月まで調書の入力作業を行い、一覧表を作成した。項目は名称、品質形状、寸法、作者、保存状態、内容などである。



擬古堂内での書画の調査

(3) 考古資料について

建物内の西エリアの棚に収蔵されている土器や瓦など考古資料の調査を行った。大部分の資料には紙片や墨書きで採集地が記されており、府中町付近で採集されたものばかりであった。資料は瓦や土器、金属類など多岐にわたる。平成29年6月8日にミステリーハンター3人が遺物の写真撮影をし、調書を作成した。作業は建物入り口付近で実施した。調査点数は119点で、現地での作業終了後、調書の入力作業を行い、一覧表を作成した。項目は種類、採集地、注記などである。

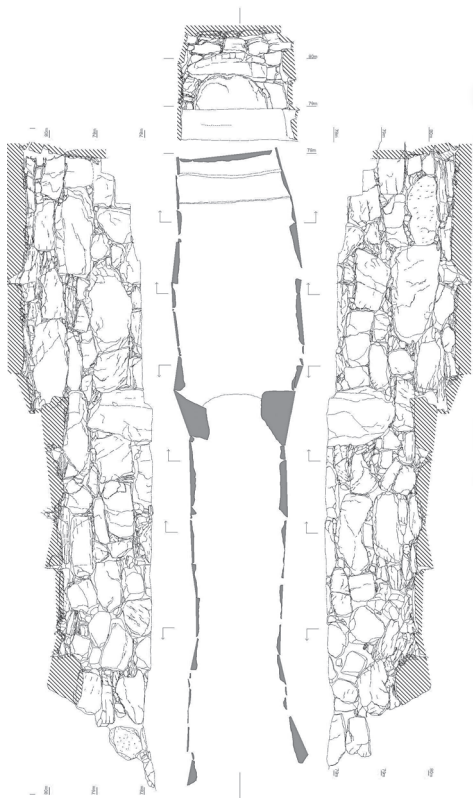
3 新宮古墳測量調査

平成24年度の綾織塚古墳あやおりづかの測量調査に引き続き、平成25年9月から11月にかけて坂出市府中町にある新宮古墳しんぐうの測量調査を行なった。

新宮古墳は綾北平野全域や瀬戸内海を見渡すことが出来る府中町の綾川に向かって突き出た尾根の上に造られた古墳である。讃岐国府が設置される直前の時



新宮古墳測量調査風景



新宮古墳石室測量図



新宮古墳墳丘測量図

代である古墳時代末に築かれたもので、この地域にどのような勢力が展開していたのかを知る手がかりを得るために測量調査を実施した。その結果、一辺が約 20 m の方墳で、横穴式の石室は全長約 12 m であることがわかった。

調査前に行った古墳周辺の雑木や雑草の刈り取りは大変な作業であった。古墳の隣にある忠魂堂の前に、刈り取った雑木や雑草が山盛り積まれた。また、石室の天井に穴があいていたらしく、石室内にいつも水が数センチ溜まり、調査前にバケツで水を汲み出した。また、周辺は「蚊」の名所で、大量の蚊取り線香と虫よけスプレーは必需品であった。天井の穴はその後ブルーシートがかけられる対策もとられた。

石室の測量は綾織塚の時と同じくレーザー光線を使って基準線を照査し、それを基にメジャーで測りながら方眼紙に内部の積石の形状を一つ一つ書き入れていった。石の表面には凸凹があり、重なりあったり、小さな石がはめ込められていたりして、これらを立体的に表現する記録の仕方について職員の指導を受け、工夫をしながらコツコツと進めていった。根気のいる作業だが、少しずつ書き入れ



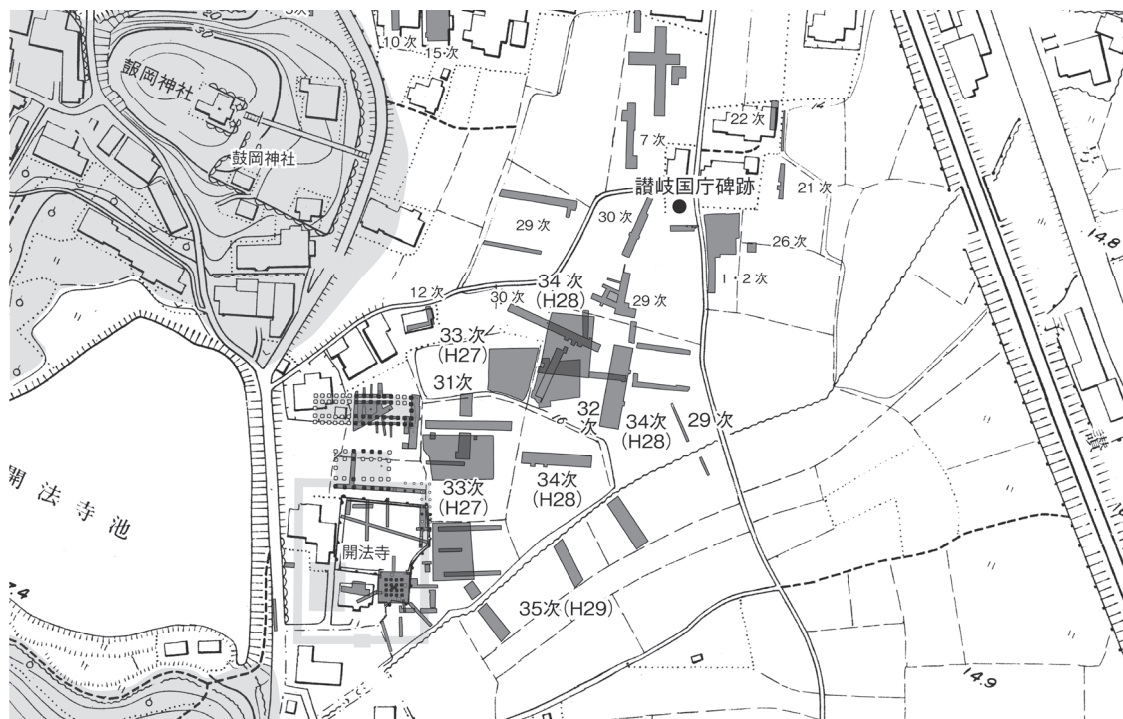
新宮古墳地元説明会風景

ていくとちゃんとした実測図になっていき、やりがいを感じた。

11月2日には、新宮古墳の地元説明会が実施され、多数の方が参加された。説明会の準備で古墳周辺の草刈りを行っていたところ、近くに「ハチの巣」を発見した。地元有志の方も加わって取り除こうとしたがうまくいかず、殺中剤をかけ、当日注意を喚起するなどしたことが思い出される。

いろんな経験をしながら無事終了し、貴重な体験をすることが出来たことは、大変有意義な思い出になった。

4 讃岐国府跡発掘調査



発掘調査地 坂出市都市計画図 1/2,500 を利用

(1) 第31次讃岐国府跡発掘調査（平成25年度）

平成25年10月21日現地調査を開始した。国府の中心施設のくわしい内容を明らかにするため、平成24年度の調査地の南西側を調査した。

この年度からはプロの発掘作業員も調査に加わった。養生シートの畳み方、土のうの作り方などの手際の良さは非常に勉強になった。

調査は順調に進み、平成26年2月8日、9日現地説明会を予定した。ところが、8日は香川県では記録的な積雪となった。現場の状況を見た瞬間、呆然……。2月8日の地元対象の説明会は急きょ中止し、翌日の部と合同で行うこととした。それでも9日の午後には今年の調査の成果を見ていただかなくてはならない。雪が上がりだした正午前

ごろから、職員が総出で、現場の雪かきをしたり溶けた水を排水したりして、現場の復旧に努めた。

9日も職員とミステリーハンターは現場の復旧・説明会の準備におおわらわ。現場の養生シートをはずし、現場や通路の排水作業、通路の確保などの作業にてんてこ舞いだった。説明会の時間が近づくと、青空も見え、日射しも出てきて、まずまずの説明会日和となった。参加者が開始時間前から続々と現地を訪れ、調査地は満員状態となった。参加者は、職員から讃岐国府跡や讃岐国府設置直前の府中の歴史、今年度の調査で見つかった建物跡や区画施設跡についての説明を熱心に聴き、今年度の大きな成果であった奈良時代の建物を構成する大型柱穴や中心施設の西側を区画する大型の溝に目を見張っていた。参加者には古代の讃岐国府の姿を想像して貰えたようだった。荒天にもかかわらず、そして雪解け水などで足元が非常に悪いなか、300名の方の参加があった。

平成26年3月2日(日)には坂出市民ホールで平成25年度讃岐国府跡探索事業成果報告会「讃岐国府を語る」が開催された。ミステリーハンターも条里と南海道について200名の参加者の前で発表した。

(2) 第32次讃岐国府跡発掘調査(平成26年度)

平成26年11月4日から現地調査を開始し、11月10日からミステリーハンターも発掘作業に加わった。平成24年度に調査をしたトレンチ(細長い調査区)の一部を再掘削し、埋め戻していた大型の柱穴を再び掘り起こした。

調査はまずガリかけから。柱穴が掘り込まれたと考えられる高さまで地面を掘り下げたら、「ガリ」とよぶ草削り鎌でひたすら地面を薄く削って微妙な色合いや土質の違いから柱穴や溝などの遺構を探していく。右上の写真はそのガリかけの真最中のもの。作業員さんとミステリーハンターたち、そして職員も入り混じって真剣な面持ちでガリか



2月8日の讃岐国府跡



奈良時代の大型掘立柱建物の柱穴跡



報告会でのミステリーハンターの発表



ガリかけの真最中



遺構の輪郭を測量しています

け作業をしている。その後、どんな遺構が顔を出してくるのやらそれが楽しみである。

調査が始まって一月あまりが過ぎた12月18日、調査も佳境に入っていた。柱穴があるのかないのか、見極めが難しい地面と格闘しながらガリかけを重ねて柱穴を探し出す。これまでに円形や大型の隅丸方形の柱穴がいくつも見つかり、中には規則的に並ぶものもみられた。古代の土器や瓦も日々多量に出土した。柱穴には形（円形、隅丸方形など）や方向（隅丸方形の場合、1辺が周辺の条里地割を向くもの、正方方位を向くものなど）、土質・色調の差や、出土する遺物の時期の違いなどいろいろな違いがある。中には時期が違う柱穴が重なっているため、円形や隅丸方形の柱穴が連結したような形で見つかることもある。柱穴が見つければその建物の規模はどれくらいか、何棟あるのか、またその時期はいつか等について職員が慎重に検討していった。

平成27年2月14日（土）・15日（日）に現地説明会を開催した。14日は風が吹きさぶ寒い気候だったが、15日はうって変わって穏やかな気候に恵まれた。

この年の調査の目玉は平安時代の大型建物跡である。建物の一部分が見つかっただけで、現地を見ただけでは少し理解しづらいところもあったが、この建物跡がなぜ大型だとわかり、国府跡の中でどのような意味を持つ可能性があるものかなど職員から熱のこもった説明があった。

3月1日（日）には坂出市民ふれあい会館で讃岐国府跡第32次調査地発掘調査報告会



現地説明会の様子



讃岐国府跡発掘調査報告会の様子

が開催された。埋蔵文化財センター職員から、国府の立地、これまでに明らかになった区画施設や大型建物などを関連付けながら、発掘調査成果について説明があった。当日はあいにくの雨模様だったが、135名もの参加があり、講演や報告に熱心に耳を傾けていた。

(3) 第33次讃岐国府跡発掘調査（平成27年度）

平成27年10月1日現地調査を開始した。職場体験の中学生たちと楽しく発掘調査をすることができ、元気をもらった。

平成28年2月14日（日）に現地説明会を開催し、ミステリーハンターは見学者に対する駐車場の案内、現地への道案内、現地での受付などを手伝った。

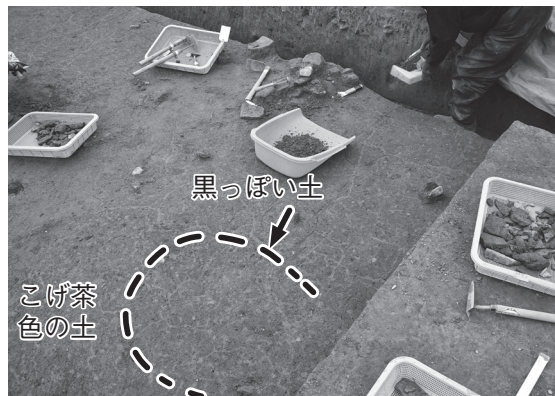


発掘調査風景

3月6日（日）に坂出市民ふれあい会館で讃岐国府跡第33次調査発掘調査報告会が開催され、ミステリーハンターも参加した。

(4) 第34次讃岐国府跡発掘調査（平成28年度）

職員が柱穴や溝といった遺構の輪郭を確定させる作業を行っている。（これを「遺構検出」と呼ぶ）これが大変だった。ミステリーハンターには手も足も出ない。下の左側の写真に見える黒っぽい土は柱を据えるための穴（柱穴）で、こげ茶色の土は古代のベース面と考えられる。職員が柱穴の輪郭を入れようとしても、輪郭がぼんやりとしてうまく進まない。多量に出てくる瓦も輪郭作業の行く手をはばんでいる。下の右側の写真は古代のベース面が黄色であるため、黒色系の遺構の土は識別し易く、遺構検出は比較的スムーズに進んでいった。



遺構検出

平成29年2月11日（土）に現地説明会を開催した。時おり雪が舞い、寒風が吹きさぶ寒い一日だったが、260人という多くの方が参加した。讃岐国府跡（香川県埋蔵文化財センター主催）と開法寺跡（坂出市教育委員会主催）の現地説明会のダブル開催という初の試みだった。

職員からは讃岐国府跡では広い調査区を設定したことで、建物相互の配置状況が明らかになり、区画施設内の空間構成が見えてきたことや、国府直前の姿がより明らかになったことなどが説明された。国府域であることを証明する大型建物群が次々と発掘されたことは素直に驚きであった。

3月5日（日）には坂出市教育委員会と香川県埋蔵文化財センター主催の「讃岐国府を語る 讃岐国府跡第34次調査地・平成28年度開法寺跡調査地発掘調査報告会」が坂出市民ふれあい会館で開催された。この報告会は毎年行われ、平成28年度で8回目であった。

(5) 第35次讃岐国府跡発掘調査（平成29年度）

発掘場所は、香川県埋蔵文化財センターの近くで、開法寺塔跡のすぐ東側である。広大な国府の範囲のなかで、平成23年度から重点的に調査を進めてきた開法寺東方地区の一角にあたる。平成29年8月28日から発掘調査が始まった。

10月中旬には、調査区の西半分で南北方向の複数の溝と瓦がまとまって出てきた。溝の上には多くの瓦があり、溝の全貌はまだ分からない。瓦に傷を付けないよう、竹ベラで周りの土を丁寧に落とす。瓦には通常の丸瓦や平瓦以外に、軒瓦も出土している。ミステリーハンターは国府の姿が明らかになることを祈りながら調査に参加している。



現地説明会風景



飛鳥時代から奈良時代の瓦



現地説明会風景

5 まち歩き

ミステリーハンターの活動の1つに「まち歩き」ガイドがある。

府中町周辺の歴史遺産を巡るまち歩きは、香川県観光振興課での募集や県内のグループからの依頼、さらには水のフェスティバル in 府中湖での行事の一環などで実施した。平成23年度から始め、平成26年3月には「ミステリーハンターのまち歩きガイド」を発行し、この冊子をベースに新たな情報を加えて、この5年間で16回のガイドを行ってきた。そのガイド役は、個性あふれる複数のボランティアが交代で行った。

主なガイドは、

- Kさん 「城山命」「道真の漢詩命」で、時には道真になりきりコスプレ姿で案内し、参加者の度肝を抜き、Kさん独自の理論（妄想）を時間関係なしで喋り続けた。
- Aさん 元社会科の先生で、授業さながらに整然とした論調でスムーズに案内を行い、さすがと思わせた。
- Mさん 宗教に造詣が深く、寺院関係（五重塔など）の説明では理路整然とした案内で、さすがミステリーハンターと思わせた。
- Hさん 発掘の女王と自称し、古代の窯跡や大道を独自の理論で説明し、女王ゆえに質問は一切封じるという説明ぶりに圧倒された。
- Mさん 「歴史の素人」を前面に押し出し、知識の少なさを覆い隠して、ひたすらダジャレで笑いを取ることに専念していた。

これらのメンバーが、交代でまち歩きの説明にあたった。

まち歩きは、このような独特のキャラを持つボランティアにより、国府跡周辺を中心に実施した。同じ場所でもそれぞれ個性の違うガイドが説明することにより、様々な視点から府中の歴史を紹介することが出来き、有意義な活動であったと思う。

説明場所は、讃岐国府跡発掘調査現場、讃岐国庁跡碑、鼓岡神社、城山神社、新宮古墳、国府印鑰明神遺跡碑、国分寺跡、開法寺跡、醍醐寺跡、山内瓦窯跡、城山等多数の箇所^{きやま}に及び、説明箇所の選定は、説明対象グループの年代や時間・距離などを考慮し、数か所に絞り込んで説明した。説明の都度この周辺の歴史遺産の多さに驚かされた。



説明前の事前準備



道真さん？も説明に

ガイド役を務めてよかったと思う点は一番に、自分自身の勉強になったことが挙げられる。2時間説明するにはその何倍もの時間をかけて資料やネット等で勉強し、また場合によっては現場にも赴き、説明の構想を練ったうえで、当日配る資料や説明原稿を作成する。この作業は押し付けられたものではなく、少しでも自分のつたない知識を十分に伝えたい、という気持ちから行うもので、自分の知識



第17回水のフェスティバル in 府中湖
いきいきウオーク

の向上に大きく貢献する。次によかったと思う点は地元の子供たちに府中の歴史のすばらしさの一端を伝えられたこと。昔は、祖父母や両親から府中の歴史に関する話をよく聞かされていたようだが、核家族化の影響や他地域からの流入により、最近は歴史の伝承の機会が失われつつあるように感じる。まち歩きを通じて地元の子供たちに少しでも、自分たちの住んでいるまちの歴史の素晴らしさを感じてもらえたのではと思っている。

6 現地研修

(1) 平成25年度

2回の現地研修（6月・11月）を行った。

6月11日に兵庫県上郡町郷土資料館・野磨駅家跡・布勢駅家跡・たつの市立龍野歴史文化資料館・浄土寺・兵庫県考古博物館を見学した。

古代にタイムスリップした様な盛り沢山の一日。真っ直ぐに延びた古代の山陽道・山の谷あいに残った野磨駅家・田園の中の布勢駅家は興味深い。播磨の小京都たつの市の豊かな文化財にふれながらの散策♪また鎌倉時代に創建された浄土寺の阿弥陀三尊像は



浄土寺



野磨駅家跡

神々しい。

11月12日に岡山県の津山弥生の里文化財センター・美作国分寺跡・美作国府跡・津山城・美和山古墳群・院庄館跡を見学した。美作国府跡は住宅街にあり、往時の佇まいを想像するのは少し難しかった。国分寺跡・美和山古墳群を知ることができたのは、収穫だった。津山城下で、B級グルメホルモンうどんを頂く。院庄館跡（作楽神社）は中世の守護職の館跡と推定されており、隠岐へ配流された後醍醐天皇とその忠臣が祀られている。ミステリーハンター最年長のSさんは学校で教えてもらったことを思い出し、感慨深けだった。



美作国分寺



こうだいじ
国府臺寺（美作国府政庁跡推定地）

(2) 平成 26 年度

9月30日に愛媛県の久米官衙遺跡群・朝倉ふるさと美術古墳館・永納山城跡を見学した。

久米官衙遺跡群は広大で、見学は暑くてたいへんだったが、発掘調査で明らかになった役所の政庁・回廊、寺院の金堂跡の姿に感動し、これからの讃岐国府跡の調査に身が引き締まる思いがした。次に訪れたのは名前も知らなかった永納山城跡である。降り出した雨の中、列石・土塁などについて西条市職員から丁寧な説明を受けた。城山城の規模に馴染んでいるためか、少し物足りなさを感じたが、古代山城四国三制覇達成に満足した。



久米官衙遺跡群



永納山城跡

(3) 平成 27 年度

11月22日に大阪府と奈良県にまたがる高安城跡、奈良県の葛城市歴史博物館を見学した。

高安城跡の石塁見学では、急こう配の中、転んだり・滑ったり・這いずりまわりながら、山の中に入った。図らずもミステリーハンターが、この城の鉄壁振りを証明したようだ。苦労してたどり着いた石塁は小規模ではあったが、石塁の発見者に詳しくよくわかる説明をしてもらい、感銘を受けた。到底一人ではこられないところである。また、市民グループが緻密な現地調査で発見した倉庫跡の礎石も見学し、ミステリーハンターも負けじとがんばろうと奮起した。

葛城市歴史博物館の床には、航空写真が写し出され、竹内街道や条里がみてとれた。地方への文化の流れが想像できた。



高安山山頂にて 難波宮方面を背に



高安城跡倉庫跡の見学

(4) 平成 28 年度

11月22日に岡山県のノートルダム清心女子大学で講義を受け、備前国庁跡・おおめぐりこめぐりさんじょうあと大廻小廻山城跡・備前国分寺跡・りょうぐうざん両宮山古墳・山陽郷土資料館を見学した。

ノートルダム清心女子大学は、意外に簡素な教室で、にわか女子大生たちが、木下華子先生から菅原道真の著わした「菅家文章」の講義を受けた。講義は格調高いもので、漢詩に語られた真実と、道真の脚色について理路整然と説明してくださった。漢詩の舞台のミステリーを解決する糸口がつかめたように思われた。華子先生のファンになったミステリーハンターも沢山いたのでは！講義の興奮がさめやらぬまま、女子大をあとにし、ふと我を見た。大学では本物の学生をあまり見かけなかったが、彼女たちは私たちがどう感じていたのだろうか？

大廻小廻山城跡は大規模で、土塁・水門等見るべきものは多かった。水をたた



大廻小廻山城跡水門跡前にて

えた両宮山古墳は、期待通りの大きさと美しさを備えていた。

(5) 平成 29 年度

11月8日に鳥根県の出雲国分寺跡・出雲国府跡・八雲立つ風土記の丘展示学習館を見学した。二度目の出雲の国。7年前を思い起こしながら、国府跡を散策♪正殿跡は調査中だった。お昼の薬膳ランチは好評☆9年間の現地研修色々なことがあったが、それぞれ良い思い出が沢山できたことだろう。最後になりましたが、企画・下見から全てお世話していただいたイケメンさんに感謝します。ありがとうございました。ミステリーハンターの皆さんお疲れ様でした。



両宮山古墳の墳丘と周濠



出雲国府跡



出雲国府跡発掘調査現場の見学

9 ヲ年を振り返って

様々な活動を通じて

安藤 みどり

一番の思い出は、やはり発掘である。初めて現場に入ってガリ掛けをした時のドキドキ感、雪の舞う寒い日、職員と二人きりの現場で、まごまごしながら活動したときの緊張感、忘れられない思い出だ。

また有志で、古代の海岸線や綾川の旧河道を探して松山地区や林田地区を歩いたこと、南海道探索で東の引田から西の大野原へと歩いたことなども楽しい思い出で、歴史地理学の面白さを知った。奈良大学（通信学部文化財歴史学科）の卒業論文を書くことができたのもこれら探索調査のおかげだ。

残念ながら5年目（2013年）に病を得て、発掘調査には参加できなくなったが、地籍図や地形測量調査・古墳調査・林田出張所や鼓岡文庫の資料調査・南海道調査など、今思い起こしても様々な調査活動を経験し、調査研究のいろはを教えてもらった。

発掘調査の成果もあがり、私たちミステリーハンターの国府跡探索活動は大成功だったと思う。

山の稜線を見て昼寝

池浦 健一

仕事や遊びに没頭して「あまりにも周りのことを知らない自分」に気が付いた。昔のことは考えることも思うこともなく、過ごしてきた。今がある昔のことを、さもありなんとイメージさせるものは、巷に数あるが、それを組み立てる必要のあるなしは、今の受け皿、感情に左右される。ようやく、国府碑を眺める広い芝生の上で、昔と変わらないだろう山々の稜線を見ながら、ゴロリと昼寝できる今、安寧をもたらしていただけることは「ありがたい」。この府中町「コンビニはないけど古墳はあるよ」といわれた。ただただ残していただいたからこそ、今、イメージする楽しさがあった。「知りたい」という気持ちが萌え始めている。See you around Bye

ミステリーハンターに参加して

岩崎 良則

平成30年3月で、ミステリーハンターの事業は終わる。それぞれに「思い出を書き残すように」とのことで過去の事を羅列する。

先ず田の測量に参加した。暑くて大変だった。国府の発掘作業は素人集団なので職員の方々は、大変だったと思う。作業は厳しかったが、何が出てくるか興味が大きくて楽しかった。2011年度に大型建物が見つかり、全体の雰囲気が変わった。2012年度には、

国府跡とおぼしき建物跡が次々に発見されて、毎日わくわくした。この年に東京都府中市の国府跡を見に行き、関東の状態を知ることが出来た。ミステリーハンターが国府跡とみられる柱穴にたどり着いた後は、発掘プロの作業員も調査に加わったが、秋になると気になり、土運び作業に参加した。

綾織塚古墳の測量も楽しかった。この古墳の造営に携わった技術者集団と作業に従事した人たちは、どんな思いであったのか？

鼓岡神社内での資料調査は暑くて、たいへんだった。

毎年の現地研修は最大の楽しみであった。

ミステリーハンターでなければ出来ない体験を計画し、その都度指導して下さった職員、ミステリーハンターの人々の好意と友情に支えられて楽しく過ごすことが出来、有難うございました。

“ミステリーハンター” 何かおもしろい！

梶 英憲

学校帰りには開法寺池でハス根を掘り、鼓岡の広場では鬼ごっこ、祭りには村中の獅子が集まりました。母から府中は国府の村だとは聞かされていましたが、目の前の田の中に日本の歴史が埋まっているとは。

城山を調べることになり、近所の老人から「薪木やたばこの苗床の落ち葉を集めたが、今はイバラやササで入れないだろう」と聞かされていましたが、何回か行って昭和 26 年に国から指定された史跡の石柱を探し出しました。それまでは、菅原道真が雨ごいした場所だとは知っていたが、古代山城があったことは知りませんでした。

地名の聞き取り調査で、府中町には国分寺の東にある徳政寺の檀家が多く、不思議に思っていました。徳政寺は、元々は広島のア芸にあった寺で、その後ア芸から入ってきた吉川家の家の前に移り、更に現在の場所に移ったとのが分かり納得しました。府中に移り住んだ吉川家の家来衆も同じ檀家です。

また、林田・加茂の古地名の調査では、「米出し」「城の角」「角戸」「蔵尻」「蔵元」と城下町のような名の付く地名があり、これらの地区の総称として地元では、毛利（もりさん）と言われていることも分かりました。

ハンターに入って三年目、石碑の近くを掘ることに。田の上土を掘り下げて昼食に帰り早めに来て職員と座って見ていると、土の色が黒く見える所があったので、その表土を削ると柱穴が出てきました。国府が見えた瞬間でした。

ミステリーが本物に！

ミステリーハンターの思い出

金倉 留美子

2009年4月、新聞でミステリーハンターの募集を見て、歴史好きな私はすぐに申し込みました。讃岐国府はどこだと、香川県埋蔵文化財センターの職員といっしょに地形・地名・水利調査に行きました。夏場の測量を懐かしく思い出します。検地帳の調査では、役人達の仕事の緻密さに感動し、また、幕府の底力を見た気がしました。

発掘調査では吹雪にあったり、排水作業のプロの厳しさを経験しました。古墳調査では古代人の高度な石積み技術に敬服しました。

体調や時間の都合がつかず、いつも申し訳ない気持ちでした。でも、毎回発見があり充実していました。南海道を歩いて郷土の歴史を学ぶきっかけになったり、研修等で文化財への関心を持つようになれたと思います。

この活動で知り会えた方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。今後の皆様方のご活躍を祈念いたします。

ボランティアに参加して

葛原 知子

私がボランティアに参加したいと思ったきっかけは、善通寺市にある王墓山古墳です。偶然車で通りかかって、こんな所に？と驚きました。古墳といえば、大阪や奈良のイメージしかなかったのです。自分が生まれ育った香川にも現代に続く歴史があるんだ。ということに改めて気づき、もっと深く知りたいと思いました。

ボランティア活動の中で、発掘や測量、水路や地名の調査を体験させてもらいました。また、職員の方からは南海道を一緒に歩いたりする中で、現代に残る古代の名残をたくさん教えてもらいました。そうした経験を通して、いつもの道を歩いても道標に気が付いたり、この地名はどんないわれがあるのかなと想像したりと、見慣れた風景が違ったものに見えてきました。

香川ってすごく深くておもしろい！と感じられるようになったのが、ボランティアに参加して一番の収穫です。

思い出

久保 正志

発掘に関わって数年が経ち、お役に立ちませんでした但し思い出を綴ってみました。

当初「国府」とは？等から始まり「言葉の意味」等々多々知らない事ばかりでした。暑い中での林田町の測量から始まり、11月からの発掘ではガリ掛け、土嚢作り、一輪車で土運び、シート張り、寒中での水抜きなど大変でした。休憩時の温かい飲み物が有難かったです。しかし、遺物（須恵器・瓦など）・遺構が見つかった時の感動は言葉で

は表せない大きなものでした。子供のころオモチャを貰った時の無邪気な喜びと似たものでした。無知な小生には何時代のものか全くわかりませんでした。職員の説明によりおぼろげながら過去のイメージが湧いてきました。

最後になりましたが、埋蔵文化財センターの職員の方々並びにミステリーハンターの皆様には公私共ご指導していただき大変お世話になり感謝の気持ちで一杯です。書面上ではございますが厚くお礼申し上げます。

お逢い出来る時は限られてきますが皆さまと過ごした期間を有難く感謝し、今後とも宜しく願い申し上げます。

いにしえのロマン

合田 武勝

「香川県の歴史についてもっと知りたい」という気持ちを現実化させていただき有難うございました。

寒い季節の発掘作業・暑い時期の南海道の探索・思いもしなかった古墳の計測作業などに加え、ボランティア仲間の壮大かつ愉快的な夢物語で、いにしえのロマンに浸る楽しく充実した日々が過ごせました。

他県への現地研修で見聞を広めるだけでなく、文化財の保存は大変難しい課題が多いことも知りました。他県の現状を他山の石として、さすが香川県だ！といわれるような方策を編み出していただけを大いに期待しております。

9 か年を振り返って

甲野 博

70歳を前にしてリタイアのタイミングを探っておりました時「ミステリーハンター募集」との刺激的なキャッチコピーを目にし、ボランティアに参加しました。

それまで、歴史とは壮大で荘厳な城跡や建物などのことで、地中の遺物を掘り出して歴史を紐解き紡いでゆくことは、スペシャリストの世界との認識でした。

専門員の先生方から小道具を駆使し地層や遺物から過去を紐解くことを学び、魅せられ、その後多くの発掘調査に参加し、多様な仲間と出会う機会を得ました。

また、今ではどんなところに旅しても、讃岐国府跡初期調査で学んだ地形、地名調査が思い出され車窓からも飽くことなく大いに楽しんでおります。見知らぬ世界を教えていただいた数々の現地研修旅行、イベント、そして埋蔵文化財センターの皆様、仲間たちにお礼申し上げます。

私の歴史の旅の遍歴

齋藤 茂

私は、小学校3年の頃大阪で住んでおり、日曜には京都や奈良、遠くは伊勢神宮へ行ったものです。私の歴史好きは、この頃から始まっていたのではないのでしょうか。また、母の姉の香西家は讃岐一宮、田村大社の神官の家系であったということも何らかの形で影響しているのかもわかりません。

昭和20年頃には、吉野山の奥の洞川から山伏信仰で名高い大峯山に登り“西のぞき”を詣り、^{まい}と^あ戸明けの行事も経験しました。この時に、汽車の窓から乗り降りしたことを今でもよく覚えています。

田植え後には、1昼夜交代で水路の見張りをする「水番」をしましたが、この時に古老から土地の小地名や用水路の名前、昔の出来事等をよく聞きました。

昭和27年に発足した人物往来社（東京）の歴史研究会の会員になり、会員同士の文通を通して色々な知識を得ることが出来ました。

昭和47年には、香川県教育委員会文化行政課の文化財巡視員となり、20年間文化財の発掘を度々確認することができたことが思い出されます。丁度この頃、徳島県歴史研究会に入会し、両県の歴史の研究や現地視察も度々行うことが出来ました。

平成23年に、ミステリーハンターの一員となり発掘や様々な調査に加わる事が出来ました。私の歴史の旅に相応しい思い出を作ることが出来感謝しております。

ミステリーハンターを去るにあたって

坂下 周市

途中からの参加でしたが、今まで体験したことのない不思議な空間で過ごした日々でした。

発掘作業では、国府のあった時代に皆さんと一緒にタイムスリップし、遺跡や遺物に直接手で触れることが出来、しかも専門家の解説がついていました。

地形調査、古墳調査、資料整理等もそれぞれの作業の目的以外にも、私の今までの体験には全くないものを学ばせていただき、ワクワクした毎日でした。

現地研修では、現地の専門家による解説付きで、途中のバスの中では事前解説を同行の香川県埋蔵文化財センターの職員からして頂くという贅沢な研修でした。

今後の讃岐国府跡の活用がスムーズに進むことをお祈りしております。有難うございました。

讃岐国府ミステリーハンター活動を振り返って

佐々木 方彦

国府の意味も知らずにミステリーハンターのメンバーに加えて頂き、古代史について色々なことを学べて有意義な期間でした。香川県埋蔵文化財センターの担当職員の方々、ミステリーハンターの皆様には様々なことをご指導いただき厚く感謝とお礼申し上げます。

参加した平成 25 年度以降の主な活動について

- ・発掘調査 現地説明会、発掘調査報告会では調査のご苦労が良く分かりました。発掘にはほとんど参加できていません。
- ・現地研修 普段行けない史跡を巡り、その都度現地で専門員の方の説明もあり、いずれも内容の濃い研修でした。
- ・鼓岡文庫資料調査
古い書物がぎっしり保管されていることに驚きました。作成した目録が役立つことを望みます。
- ・各種の資料
発掘調査報告書をはじめ数多くの資料を入手出来ましたが、理解できない部分が多くあり、学力の不足を痛感しています。

9 年間を振り返って

十河 裕之

平成 21 年から讃岐国府跡探索事業の活動に参加させて頂きました。参加の動機は、菅原道真公も赴任したという讃岐国府の所在が実はまだ確定していないという新聞記事を見て、この所在を探索するというのは非常に魅力的な活動だと思ったことでした。

活動に参加してみると、地名調査や地形調査、水利調査や発掘調査、条里地割と余剰帯から南海道を比定し実際に現地を歩いてみる調査といった非常に面白い内容でした。日頃、事務仕事に明け暮れるサラリーマンにとって非日常の異次元世界に迷い込んだようなものと言ってよく、国府探索をきっかけとして、奈良・平安時代以前の弥生時代・古墳時代や鎌倉・室町時代以降の事跡にも興味対象が広がって行きました。

ミステリーハンターの後半活動には余り熱心でなかった私としては少し言い難いのですが、国府政庁は9年間探索した範囲にはなく、それが重要な発掘成果だと思います。国府政庁はすでに削平を受けて跡形もなく消え去ってしまったものか、それとも9年間発掘調査を続けた場所とは別の場所に現在も遺構が眠っているものか。これは地表から地下内部が探査できる機器が発明されるまで、容易には分からない難題かも知れません。

様々な調査活動を通して不明だった事実が少しずつ明らかになって行くという考古学調査の醍醐味を体験させて頂きました。9年間お世話を頂いた埋蔵文化財センターの皆様、及び9年間活動を共にした仲間の皆様には、心より感謝申し上げます。

夢と希望にあふれた9か年を振り返って

高橋 利秋

発掘など素人の私が讃岐国府跡探索事業のミステリーハンターとして大変貴重な古の体験を9か年もさせて頂いたのは、府中町の皆さんが貴重な遺跡を残してくださったお陰です。ありがとうございます。そして香川県埋蔵文化財センターの皆さん、ご指導・ご教示ありがとうございます。ミステリーハンターの仲間の皆さん、大変お世話になりました。

「地名調査」では、「大道」という地名が随所にあり、この調査を基に恥ずかしながら会館で発表をさせて頂いたこと。

「地形調査」では、府中町・加茂町・林田町等の広範囲を測ったこと。

「発掘調査」では、たくさんの遺跡を発掘したこと。

「古墳調査」では、綾織塚と新宮古墳の実測を行ったこと。

「南海道調査」では、東かがわ市から観音寺市まで官道としてあった南海道ルートを車と徒歩で踏査したこと等。

歴代のセンター所長・課長様始めご指導・ご教示頂いた職員の方々に厚く御礼申し上げます。

天網恢々疎かいかいそにして漏らさず

高橋 徳

孔子のこの言葉を柱に9年間歩んだように思う。埋蔵文化財センターの職員から「南海流浪記」の課題をいただいた時、参考文献をまず探索、「群書類従」・「香川叢書」の2冊で約7か月間鎌倉時代の古文書と取り組んだ。作者の高野山正智院の高僧道範（?～1252）が紛糾の渦中に巻き込まれ讃岐に流された紀行文（和歌舎）『都をば霞のよそにかへり見ていづち行らん淀の川波』霞のはるか遠方にある都をふり返り仰ぎ見ながらこれから先いずこに向かうのだろう。淀の川波そのままに心は波立ち暗澹として深く沈潜し不安から抜け出せない。遠国配流の処断を受けた深い悲哀が読者の心にひたひたと打ち寄せてくる。岡山のリートルダム清心女子大学で香川県埋蔵文化財センターの研究紀要の上記論文をテキストとして使用したと木下華子准教授からうかがった。女子大生はどんな感想を持ったのだろうか。天理の図書館で卒論を書き上げた夏、あの日々も今年のように暑かった。関係者の皆様御恩の数々感謝します。

9 ヲ年を振り返って

長谷川 宏

ミステリーハンターの活動は、この上なく地味な調査から始まった。地名、地形から水利に至るまで、初めての経験で興味深いものだったが、それが国府発見にどう繋がるのかという戸惑いはあった。

炎天下に器材を担いで、標高を測量したことが浮かんでくる。街角でアイスクャンデーにありついたハンターの少年のような笑顔が忘れられない。

わずか45㎡から出発した発掘からは、作業の厳しさや努力が必ずしも直ちに成果に結びつかないことを感じた。

9年間、何にもまして得たものは、新しい人とのつながりだ。異なる経験をしてきた秀でた人たちと同じ目的に向かって活動することは充実していて、心地よい。埋蔵文化財センターの人たちには、辛抱強く指導して頂いた。さよならは寂しいが、いい経験だった。永いお付き合いにお礼を言いたい。一刻も早い朗報が届くことを祈る。

ミステリーハンターとして

藤岡 貴

定年退職後の生き甲斐作りにとの思いで、ミステリーハンターに加えて頂きました。十分な活動が出来ませんでした。参加した日々は時の経つのを忘れての作業は楽しく出来ました。仲間ともども期待している国庁の証が期待されますが、今年がその年に成ることを願っています。

9 ヲ年を振り返って

藤田 和康

2009年4月、新聞で「讃岐国府跡探そう」というボランティアの募集を見て、「ミステリーハンター」の名前に惹かれ応募したのが始まりです。

それから9年、長かったようで短かった活動でした。1年目はテントもなく休憩時には発掘で掘り出した土山の陰で寒風を避けたことなどを思い出します。

9年間、新しい発見・発掘がありました。まだ国庁が見つかっていません。私の生きている間に是非とも見つけ出し、あの世で菅原公に報告したいものだと思っています。

同僚および関係者の皆様、どうもありがとうございました。

“いにしえの風”

古田 博子

ミステリーハンターとして府中で過ごした、あっ！という間の九年間。何もかもが目新しい事ばかりで、こういう世界もあったのかと驚くばかりでした。明治時代の地籍図に描かれた地目と土地等級から地形の復元や、検地帳からの地名調査に始まり、遺物の取り上げ・土運び・土嚢づくり・測量・土器洗い等発掘現場での一連の作業。そして水利調査・標高測量・古墳の測量・まち歩きのガイドブック作り。条里の余剰帯からみた南海道・地籍図から大道についての調査。初めて経験させて頂いた事はまだまだあります。特にやってみたく思っていた発掘作業ができたことは本当に貴重な経験となりました。奈良時代～平安時代にかけて、香川県の政治の中心地であった讃岐国府跡。古代人になりきって“いにしえの風”を感じながら見つけたかった!! 少し心残りはありますが、丁寧にご指導して下さった職員の方々ありがとうございました。これから淋しくなります。(涙)

発掘は多くの作業の積み重ね

水谷 耕造

退職後すぐ、讃岐国府跡探索事業のミステリーハンターに加わり、昔から一度はやってみたかった発掘作業を初めて体験した時の興奮と緊張は今でも忘れません。

それまで発掘といえば「古代の珍しい土器などをバンバン発掘して古代史の謎を解明する」という華やかな印象しかありませんでした。しかし、そこに至るまでには、発掘調査地の選定に始まり、予算折衝、用地・各種器材・要員の確保等、多種多様な準備作業を経てようやく発掘作業に取り掛かり、土嚢造り、出土品の水洗いに計測、発掘場所の原状回復等を終えてやっと報告書の作成に取り掛かることができる、というふうに数多くの作業の積み重ねが必要であることを、発掘作業を通して知ることが出来ました。

埋蔵文化財センターの方々、これからも腰痛や日焼けにめげず頑張ってください。

人生を豊かにしてくれた皆様に感謝します。

宮本 義彦

私は退職してブラブラしていたところ、ミステリーハンターの名前に引かれ参加しました。振り返ってみますと、全ては「開法寺は府衙の西にあり」から始まりました。そしてまち歩きでは、開法寺の伽藍とか讃岐国分寺金堂跡等を学習するうちに、仏教にのめり込んでいきました。自分の家の仏教とは？どんな宗教なのかを学び直そうと思ひ、浄土真宗本願寺派塩屋別院の門をたたきました。そして中央仏教学院で3年間学び、学習課程を卒業しました。そのことが、私を変えました。

今では、中央教修を修了し、門徒推進員として本山には念仏奉仕団、伝統奉告法要に

参加、別院には各種研修会に出席、所属寺の西招寺では報恩講、永代経法要等に足を運ぶ回数が増えてきました。この経験を大切にして南無阿弥陀仏の人生を勧めるとともに、悩みや苦しみに押し潰されない人生を送りましょう。

9年を振り返って

和田 昭

県の職員の方から勧められ、讃岐国府跡探索事業に参加した。思いだしてみれば、非常に時間が速く経つ7年間でした。結論から言えば、歴史の面白さを、いろいろの角度からお教えていただいて大変感謝しています。

何も知らない自分を、古代日本史、中でも律令時代が、現代にまで影響をあたえている歴史のつながりを知り、これからも若返り、ボケ防止に律令時代の事を勉強していきたいと思っています。これからも、よろしくお願いします。

ミステリーハンターの主な活動行事 (平成 25 年 4 月～平成 30 年 3 月)

平成 25 年度

第 1 回ミステリーハンター研修会	5 月 11 日
現地研修（兵庫県野磨駅家跡、布勢駅家跡、浄土寺、兵庫県考古博物館等）	6 月 11 日
まち歩き「讃岐国府を歩く 国司様ご一行をご案内いたします」	7 月 21 日
まち歩き「道真が漢詩に読んだ国府を歩く」	9 月 8 日
まち歩き「国府跡と新宮古墳を歩く」	9 月 22 日
新宮古墳調査開始	9 月 30 日
第 15 回水のフェスティバル in 府中湖 いきいきウオーク	10 月 5 日
第 15 回水のフェスティバル in 府中湖 展示	10 月 6 日
まち歩き「南海道を歩き讃岐国分寺に参る」	10 月 13 日
第 31 次讃岐国府跡発掘調査開始	10 月 21 日
まち歩き「崇徳上皇の足跡を歩く」	10 月 27 日
新宮古墳地元説明会	11 月 2 日
第 2 回ミステリーハンター研修会	11 月 2 日
現地研修（岡山県美作国分寺跡、美作国府跡、津山城、美和山古墳群など）	11 月 12 日
第 31 次讃岐国府跡発掘調査現地説明会	2 月 9 日
平成 25 年度讃岐国府跡探索事業成果報告会 讃岐国府を語る（坂出市民ホール）	3 月 2 日
第 3 回ミステリーハンター研修会	3 月 15 日
『讃岐国府跡探索事業 ミステリーハンターのまち歩きガイド』発行	3 月 28 日

平成 26 年度

第 1 回ミステリーハンター研修会	5 月 17 日
南海道現地調査開始	6 月 25 日
現地研修（愛媛県久米官衙遺跡群、朝倉ふるさと美術古墳館、永納山城跡）	9 月 30 日
第 32 次讃岐国府跡発掘調査開始	11 月 4 日
第 16 回水のフェスティバル in 府中湖 いきいきウオーク	10 月 4 日
第 16 回水のフェスティバル in 府中湖 展示	10 月 5 日
第 2 回ミステリーハンター研修会	10 月 25 日
まち歩き「国府周辺の風景」	10 月 19 日
まち歩き「道真さんが見た讃岐の風景」	11 月 16 日
第 32 次讃岐国府跡発掘調査現地説明会	2 月 14・15 日

讃岐国府跡第 32 次調査地発掘調査報告会（坂出市民ふれあい会館）	3月1日
第3回ミステリーハンター研修会	3月21日

平成 27 度

第1回打ち合わせ会	5月15日
第2回打ち合わせ会	5月27日
鼓岡文庫書籍調査開始	6月22日
第1回ミステリーハンター研修会	9月14日
第33次讃岐国府跡発掘調査開始	10月1日
第17回水のフェスティバル in 府中湖 いきいきウオーク	10月3日
第17回水のフェスティバル in 府中湖 展示	10月4日
まち歩き「国府の里を歩く」	11月21日
現地研修（大阪府・奈良県 高安城跡、葛城市歴史博物館）	11月22日
第2回ミステリーハンター研修会	3月12日
第33次讃岐国府跡発掘調査現地説明会	2月13・14日
第33次讃岐国府跡発掘調査報告会（坂出市民ふれあい会館）	3月6日

平成 28 年度

第1回ミステリーハンター研修会	5月14日
第2回ミステリーハンター研修会	8月25日
第34次讃岐国府跡発掘調査開始	9月1日
第18回水のフェスティバル in 府中湖 いきいきウオーク	10月1日
第18回水のフェスティバル in 府中湖 展示	10月2日
鼓岡文庫書画調査開始	10月13日
研修旅行（岡山県ノートルダム清心女子大、備前国庁跡、両宮山古墳等）	11月22日
第34次讃岐国府跡発掘調査現地説明会	2月11日
讃岐国府跡第34次調査地 平成28年度開法寺跡調査地発掘調査報告会 （坂出市民ふれあい会館）	3月5日
第3回ミステリーハンター研修会	3月11日

平成 29 年度

城山さくらハイキング（醍醐古墳群）	4月2日
第1回ミステリーハンター研修会	5月27日
鼓岡文庫考古資料調査	6月8日
第2回ミステリーハンター研修会	8月26日
第35次讃岐国府跡発掘調査開始	8月28日
『讃岐の南海道を歩く』発行	9月27日

第 19 回水のフェスティバル in 府中湖 いきいきウオーク	9 月 30 日
第 19 回水のフェスティバル in 府中湖 展示	10 月 1 日
まち歩き「道真さんの里を歩く」	11 月 3 日
現地研修（島根県出雲国分寺跡、出雲国府跡、八雲立つ風土記の丘展示館）	11 月 8 日
第 35 次讃岐国府跡発掘調査現地説明会	2 月 10 日
讃岐国府跡第 35 次調査地 平成 29 年度開法寺跡調査地発掘調査報告会 （坂出市民ふれあい会館）	3 月 4 日
第 3 回ミステリーハンター研修会	3 月 17 日

ミステリーハンター活動記録の刊行

ミステリーハンターの活動を「活字や印刷物で残していくことも必要」と考え、ミステリーハンターが執筆・編集を行い、本書を含め4冊の活動記録を刊行した。

①「讃岐国府ミステリーハンターの参加活動 讃岐国府跡探索事業ボランティア調査員（2009年度～2012年度）」（A4版38頁）2013年3月発行

ボランティア調査員の当初4年間（2009年度～2012年度）の活動内容を紹介している。

②「ミステリーハンターのまち歩きガイド」（A4版36頁）2014年3月発行

ボランティア調査員が発掘と並行して活動したまち歩きのガイド作成。8ルート6人のガイド役が説明ポイントを概要版として作成したもの。現在でもこれを下敷きに充実した案内を行っている。

③「讃岐の南海道を歩く」（A4・カラー版68頁）2017年9月発行

香川県内の奈良・平安時代の南海道ルートを探る調査。県内の条里地割とその残された痕跡を探し、9年間かけて実地調査した内容をカラー刷りで刊行、ルート地図や写真など古代南海道を楽しむ案内書にもなっている。

④「讃岐国府ミステリーハンターの参加活動 讃岐国府跡探索事業ボランティア調査員 2013年度～2017年度」（A4版30頁）2018年3月発行（本書）

2013年度からの5年間のボランティア調査員活動をまとめたもので、ミステリーハンターの最終活動記録。前期4年間の続編として9年間の活動にピリオドを打つ内容となっている。

※これらの冊子はいずれも香川県埋蔵文化財センターのホームページの「讃岐国府跡探索事業」で公開している。

讃岐国府跡探索事業ボランティア調査員（ミステリーハンター）

◎安藤みどり ◎池浦健一 岩崎良則 梶 英憲 金倉留美子 葛原知子
久保正志 合田武勝 甲野 博 齋藤 茂 坂下周市 佐々木方彦
◎十河裕之 高橋利秋 高橋 徳 長谷川宏 藤岡 貴 ◎藤田和康
◎古田博子 ◎水谷耕造 宮本義彦 和田 昭 （◎印は編集委員）

讃岐国府ミステリーハンターの参加活動

さぬきこくふあとたんさくじぎょう
讃岐国府跡探索事業ボランティア調査員

(2013 年度～2017 年度)

平成 30 年 3 月 9 日発行

編集 讃岐国府跡探索事業ボランティア調査員

発行 香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町南谷 5001 - 4

電話 (0877) 48 - 2191 (代表)

印刷 株式会社 成光社

